

## 平成 30 年 7 月 20 日 市長定例記者会見 会見録

### 【市長】

毎日、暑い日が続いておりますけれども、体調崩さないように、乗り切っていきたいというふうに思います。

まず、最初に 2 件、私からお悔やみを申し上げなければなりません。

まず 1 つ目は、ご承知のとおり、7 月の西日本豪雨の件であります。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。200 名以上の方々が亡くなりました。心より哀悼の意を表します。

2,800 棟以上の住宅が全壊するなど、今回の豪雨は、西日本を中心に各地に大きな被害をもたらしました。44 年前、七夕豪雨という、私たちにとっての大災害を乗り越えてきた本市としましても、決して他人事ではありません。被災された地域の皆様には一刻も早い、日常生活への回復をなされるように、願わずにはられません。私どもも、最大限、復旧復興への支援を行っていくつもりであります。

2 つ目は、まさに 21 日に 17 年ぶりに開幕せんとする、劇団四季の「オペラ座の怪人」のロングランを前にして、去る 13 日の金曜日、劇団四季創立メンバーの一人の浅利慶太さんが亡くなりました。謹んでお悔やみを申し上げます。

静岡市と劇団四季とのご縁は、今から遡ること 17 年前の 2001 年、先ほど申し上げました、この「オペラ座の怪人」の上演をしたことに端を発します。

当時は、東京以外の都市で、約 2 ヶ月間のロングラン公演を、開催できるかどうか、不安もありましたが、文化の東京一極集中の排除を理念に掲げる浅利さんの考え方に私どもも共鳴をし、それを受け入れ支えてまいりました。

舞台芸術家として高い理想を持つ浅利さんの熱意に惚れ込み、結果的には、約 1 ヶ月間の公演で、約 8 万人を動員をし大成功を収めました。

その後「キャッツ」や「美女と野獣」など、劇団四季を代表する作品を続けてロングラン公演をしていただき、多くの市民、皆さんにミュージカルの醍醐味や、楽しさを提供して下さったと思いますし、それが野外で行う大道芸ワールドカップもあいまって、「まち劇場」という、今、3 次総の 5 大構想の中に位置づけられている文化力を経済力に変えていく。地域の固有文化というものを、地域経済の活性化につなげていくという、今の政策の流れになったんだろうというふうに、私は理解しております。

その他にも、毎年「こころの劇場」と銘打つ子ども向けのミュージカルも公演をしていただき、劇団四季におかれましては、静岡市の芸術文化の振興に多大なご貢献を頂いておりましたので、今回の訃報は大変残念でなりません。

くしくも、17 年の時を経て、再び劇団四季の「オペラ座の怪人」が、静岡市民文化会館において上演をする、そういったご縁になりましたが、これからも、静岡市は浅利さんの遺志、文化の東京一極集中を排除して、静岡市には静岡市の地域の固有の文化、これを振興して、世界に発信をして

いくと、そういう志を継いでまいりますので、地方のメディアの機関の皆様にもご協力をお願いしたいし、心からの哀悼の意を表したいと思います。

せめてもの私たちの恩返しは、明日 21 日から始まる「オペラ座の怪人」を、官民連携として盛り上げていくことだというふうに思っております。本当にありがとうございました。

2つ、お悔やみから申し上げましたが、次はホットな情報。今届いたばかりの情報をお伝えいたします。

今頃、太平洋上の機中の人であろうと思いますが、美濃部副市長が、今日の夕方、帰国をいたしますが、私の代わりに国連本部に出向いてもらい、17 日に開かれた国連加盟国や地方政府の代表、国連機関や学識者などおよそ 500 人が出席をされたというハイレベルの政治フォーラムでスピーチを行ってきました。

その席上で、美濃部副市長より、静岡市は来年 1 月 3 日から成人式を皮切りに「SDGs 推進ウィーク」を、「東京ガールズコレクション」までの間、継続的に取り組んでいくという計画について紹介をしたところ、その後、国連事務局の方から静岡市を「A Local 2030 hub」になってもらえないか、という打診がありました。

この、「A Local 2030 hub」、通称 SDGs における「ハブ都市」ですね。静岡市を通じて、アジア全体地域における SDGs の「ハブ都市」になってもらえないか、という依頼だと伺っております。

現在、ヨーロッパでは、オランダのユトレヒト、つまり東京のような巨大都市が、必ずしもハブ都市ではない、ということであります。ヨーロッパでは、オランダのユトレヒト。北米では、カナダのトロント市など現在世界で 6 都市が SDGs の「ハブ都市」となっておりますが、アジア地域で依頼をされたのは、静岡市が初めてだそうです。

今後、このことについて実務面で、国連事務局と話し合いながら、静岡市がどのような形で「ハブ都市」としての役割を果たすことができるのかということを検討してまいります。少なくとも、静岡市の取り組みが、今後、国連のホームページで公式に紹介されることとなるそうです。

私たち、3次総のスローガンは、「世界に輝く静岡」の実現でありますので、そのことに、また一歩近づくような、そんな流れに持っていきたいというふうに思っておりますので、是非、帰国しましたら、美濃部副市長への取材もよろしく願いをいたします。

さて、少しムードを変えて、上着も取って、気分転換しながら、やっていきたいと思えます。

SDGsの理念というのは、「No one is left behind on the Earth」。つまり、「地球上の誰一人も取り残さないよ」という世界を 2030 年までに実現しようという決意を持って、17 の目標に向かって頑張っていく、というプログラムであるのはご承知のとおりであります。そして、この前、6 月の議会の時に申し上げましたとおり、キーワードである「安心」とか「健康」とか「共生」とか、いうものを担保した社会を目指していくというのは、私たちが 3 次総で約 70 万人の静岡市民に提供していく地域社会の姿と、国連が約 60 億人の地球上の人々に提供しようとしている国際社会の姿は、ほんとに同じ方向性だということを確認して、SDGs を 3 次総に落とし込んでいくという作業を、今、進めているわけです。

それは、「誰一人置き去りにしない、取り残さない」ということであります。これは、究極の理想であります。66 億人を対象に SDGs として、国連がやろうとしてるんだったら、約 70 万人の静岡市が「できっこない、できっこない」をやらなきゃということ、この前音楽番組でサンボマスターが頑張っていましたけれども、まさに、そういうことなんだろうと思います。

そこで、決して思いつきではない、3 年越しで私たちが準備をしてきた全国ナンバーワンの「おもてなし市、静岡市」を目指して、市運をかけて、来月からおもてなしコンシェルジュ制度の実証実験に着手をします。

実は、人事課が、主催した公募職員による市民対応プロジェクトチームから市民対応力向上についての非常にフレッシュな若手職員の提言を受けました。

そして、私自身が市民の「おもてなし」について、見直す機会がありました。そして、皆さんからも数々指摘をされますけれど、市の職員の窓口業務がどうだったのか、粗相がなかったのか、つっけんどんでなかったのか、役所仕事ではなかったのかと。その民間企業とは違う仕組みで、組織が動いているので、そこら辺のサービス力というものが、どの程度なのかということは、常に自分の問題意識の中にありました。

私自身も、今から数年前の 1 期目の時に、エレベーターの中でたまたまお会いをした 30 代の女性、そして、それに付き添っていた私と同じぐらいの年代の男性から「市長さんですか」と呼び止められて、そして、少し途中の階でエレベーターを降りて、その男性から市役所の対応について、厳しいご意見を頂いたということが鮮烈な印象となっております。

あらゆる人が、静岡市役所には、あらゆる目的のために、来ております。私たちが想像する以上に、敷居が高いんですね、役所というところは。

そこで、どういふふうに対応するかというのは、本当に大事な誰一人取り残さないという具体的な取り組みだといふふうには思っています。市民満足度の向上、市民目線での対応、行政マンにとって、常に意識しなければならない大切なことだと、私の新しい公共経営、新公共経営、ルール・オリエンテッド、法律とかきまりを重視するということではなくて、バリュー・オリエンテッド、価値、市民が求めている価値というものに、優先順位を置くという流れの中でも、一つのささやかな取り組みとしてこれをやっていきたい。

おもてなしのマインドというものは、誰かにやらされるのではなく自発的なものです。その意味でのおもてなしのマインド。そんなマインドを持った職員を育て、そのマインドを広げ、静岡市のおもてなし力の向上を目指したいと考えました。

静岡市の取り組みに、今まで、何が必要で何が足りないのか、職員一人一人の意識として、当事者意識をもって、おもてなしができるようになるんでしたどうしたらいいのか。このことについて、長い時間をかけ調査を行い、その結果を検証するなど、じっくりと時間をかけて、検討を重ねた結果、来月、8 月 3 日の金曜日から、静岡庁舎の 1 階フロアに、おもてなしコンシェルジュを配置することとなりました。

それは、おもてなしコンシェルジュとわかる特別なネームプレート、これは、ホテルやデパートがそういう意味では、先進事例だと思います。そういう金色のネームプレートを付けた職員を、実証実験

ですので、まずは、月曜日と金曜日の 10 時から 12 時までの間、市役所の 1 階に配置をして、そして、市役所を訪れた方々で、例えばご高齢の方、あるいは少し迷っている方、どうしていいかわからない方、そういう方々に、積極的に自分達から声をかけて、「何かお困りのことありませんか」「お手伝いすることはないですか」、いわゆるコンシェルジュ「May I Help You?」ということを投げかける、そういう役割を持った、「おもてなしコンシェルジュ」であります。

市役所・区役所には、色々な手続きで日々大勢の方が見えます。しかし、役所に行くこと自体、職員が思っている以上に、来庁者にとっては手間でもあり、また緊張するものであります。私自身にも経験がありますが、どこの窓口に行けばいいのか、申請書類はこれで十分なのか、わからないことも、たくさんあるわけでありまして。そのような時に、機転を利かせて声をかけてくれる人がいたり、手を差し伸べてくれる人がいたらどうでしょうか。すごく心強いんじゃないでしょうか。そういう積み重ねの中で、「何か静岡市役所も変わったな」と、「役所仕事ではない職員が育ってきているぞ」と、また、これは大げさに言えば、まず、静岡市役所から変わり、そして、静岡市民がオリパラに向けて、おもてなし力を向上するという、まず、隗より始めよということになっていけば、嬉しいかぎりでありまして。私も 2 期目の任期の最終年度、ある意味、仕上げの年でありまして、肝入りでやっていきたいというふうに思っています。

さて、そこで、その「おもてなしコンシェルジュ」の第 1 期生を、今日は、皆さんにご披露したいというふうに集まってもらいました。それでは、早速、第 1 期生の「おもてなしコンシェルジュ」を紹介したいと思いますので、広報課長よろしくお願ひいたします。

#### 【司会(広報課長)】

今日は、14 名いるうちの 11 名が集まっておりますので、ご紹介したいと思います。

これが、「おもてなしコンシェルジュ」第 1 期生でございますが、総務局各課の職員と平成 27 年度の市民対応プロジェクトメンバーから、自薦他薦で募集して集まったメンバーでございます。先ほど、市長が申し上げたとおり、目印は金色に輝くバッジでございます。これこそがコンシェルジュの証ということでございます。

来月からの本番に備えて、事前研修を受けたりと、目下、勉強中ではございますけれども、また、来週にはですね。元 JAL のCAの方によるハイグレードな接客研修も控えておりますので、記者の皆様も、是非そちらの方も取材をしていただけたらと思います。

それでは、マスコミの皆さまを前にして緊張していると思いますが、その意気込みをリーダーの方から頂きたいと思ひます。

#### 【コンシェルジュリーダー】

このおもてなしコンシェルジュ事業第 1 期生として取り組めることを嬉しく思うとともに、このコンシェルジュ事業の成果が、私たち第 1 期生の取り組み次第であること、その責任を自覚し、覚悟を持って取り組んでいきたいと思ひます。静岡市役所を訪れる皆様の緊張や不安、一人でも多く満足や笑顔に変えていけるように取り組んでいきたいと思ひます。

【司会】

皆さんから言うことがありますね。

【コンシェルジュ一同】

私たちは、全国ナンバーワンのおもてな市を目指します。

【市長】

一同、礼。

ありがとうございました。1期生、ありがとう。よろしく申し上げます。

【市長】

皆さん、退場で結構でございます。ありがとうございました。

【市長】

ぶっつけ本番で考えたものですからね、少しぎこちなかったんではございますけれども、彼らのフレッシュな意気込みは感じていただけたかなあというふうに感じますし、また、これね、総務局の職員からやるというのもミソなんです。役所の中の役所である総務局、いわゆる管理部門、現場から一番遠い管理部門の職員が最前線に出ると、その頑張りを見ることによって、窓口で頑張っている職員、あるいは非常勤の職員さんにも良い影響が与えられたら、つまり現場にいる人は、「総務や財政はわかってないよな、現場の苦労は」という気持ちを持っている方も多んじゃないかなと私想像します。本当に現場の苦労をどれだけ管理部門がわかっているのかというのは、組織の風通しを良くするというのはそれは、それぞれ皆さんの企業・会社も同じだと思っていますけれども、そこを少しでも打ち破っていきたい、そして縦割りを是正をし、横の連携をしていきかけにしていきたいなという「働き方改革」ということにも、繋がってくるというふうに、私は思っておりますので、是非その辺りのところも含んでいただければありがたいなというふうに思います。以上であります。

それでは、二つ目の話題。「街にある危険なブロック塀ゼロを目指して」に移ります。

大阪の北部地震、これも、先月18日発生し、その直後の記者会見で記者の皆さんから静岡市はどうなっているんだというようなご質問をいただきました。教育委員会を先頭に全点検をするというふうに、私、申し上げたことをご記憶のことと思います。大阪府北部の地震のような悲劇がおこらないよう、市内にある危険なブロック塀ゼロを目指すことを改めて決意をし、そのための取組を加速していく第一歩として、今回、市が管理する施設の危険なブロック塀対策を進めることにしました。

大阪府北部地震が起きた翌日の6月19日から7月の11日までの約3週間の間に、市内1786施設の調査を終えました。小中学校については、教育委員会より公表したように、小中学校126校の対応の調査結果を、6月の29日にすでに公表を終えております。

この市有施設1786施設のうち、174施設にブロック塀があることを確認しました。このうち、調査の

結果、危険なブロック塀と判定したのが 50、基準に適合していないブロック塀と判定したのが 39、合計 89 の施設で対策が必要なことを確認いたしました。

そこで、次に掲げる三つの対応方針のもと、速やかに小中学校を含む市有施設のブロック塀対策を進めてまいります。

一つ目は、危険または基準に合わないブロック塀は撤去しフェンスなどに改修します。

二つ目は、構造上どうしても撤去できないという塀は、高さ 80 cm 以下かつブロック 3 段以下になるように改善します。

三つ目は、今後、将来において静岡市は新たなブロック塀は原則設置しません。

この三つの方針のもと、取り組みを強めていきます。一方、ブロック塀は市が管理するものだけではなく、一般のご家庭で設置されているものも倒壊の恐れがあります。このような家庭で設置されたブロック塀の撤去については、市の補助制度を積極的に活用していただきたいと改めて呼びかけます。

まず、率先して市が自ら管理するブロック塀の対策を進めることによって、市民の皆さんにもブロック塀に対する意識を高く持っていただけることを期待しております。行政と市民の皆さんが丸となり、安心安全なまちづくりを加速していきたいと思えます。報道機関の皆さまも、市の補助制度について、是非、紹介方々報道いただくなど、ご協力をお願いしたいと思います。以上です。

最後は、「首都圏等企業のお試しテレワーク勤務」であります。

来週は、2 回目になりますが、全国的にテレワークデイズの取り組みが行われます。

昨年は、2020 年東京オリンピックパラリンピックの開会式に合わせて 7 月 24 日に約 95 団体、63,000 人が参加するイベントとして実施されました。今年は 7 月 23 日から 27 日の 5 日間で約 1300 団体以上が参加する大きな国民運動として実施されます。これも、「働き方改革」という全国一斉の政府肝いりの取り組みの一つであります。

静岡市も実施団体として参加し二つの取り組みを行う予定です。

一つ目は、人口活力の維持対策として首都圏等の企業の社員のお試しテレワーク勤務を実施します。東京圏や名古屋圏の企業に勤務する 6 社 18 名の社員が静岡市内の民間施設でテレワーク勤務を行い、静岡市でのテレワークの有用性やテレワーク移住の可能性を検証する取り組みです。静岡駅周辺のワーキングスペースやシェアオフィス 5 箇所を活用するほか、駿河区用宗にあるリノベーションをした古民家の宿泊施設を会場として協力を願っています。

二つ目の取り組みは、市の職員の働き方改革の一環として、サテライトオフィス勤務の実証実験を行います。

静岡庁舎内のテレビ会議室を「一日限定サテライトオフィス」として、普段は、清水庁舎に勤務する経済局職員が出勤してテレビ会議等により業務を行います。

期間中、各会場・各参加者への取材について、取材可能な日時を調整させていただきました。ぜひ取材をお願いいたします。

以上、3つの話題であります。よろしく願いいたします。

【司会】

はい。それでは、ただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いいたします。質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【朝日新聞】

コンシェルジュの件で、これはやっぱり、何か外部からですね、たらい回しされたとかというような批判が多かったからなんでしょうか。

【市長】

月に1回、総務局広報課の広聴係が「市民の声」というものをまとめてくれて、二役のところに情報提供があります。私、1か月に一回これを見るのが楽しみなんです。そうすると職員の対応が良かったという褒めの言葉がある一方で、市の職員の対応が悪かったというお叱りの声、まあ広報にね、あるいは原課に、そういうふうになんか発信をするっていうのは、批判のほうが多いんですけども、そういうことも少なからずあります。

そこのところを何とか、今回の取り組みによって、少なくしていきたいということです。

【朝日新聞】

同じコンシェルジュで、今、若い方がたくさん出てこられましたけど、私は、何かあの、ベテランの方のほうですね、どこの課が何をやっているのか、よくわかっているの、ベテランの方をもうちょっと混ぜたほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

【市長】

一点突破全面展開で、一歩ずつ進めていきたいというふうに思っています。先ほど、申し上げましたとおり、若手職員の、人事課のひとつの提案から始まりましたので、彼らにやはり当事者意識を持って、「まず隗より始めよ」でやってみろというふうに背中を押しました。

当然、その若手の頑張りに心を動かされる幹部職員、あるいはベテラン職員が、よし、自分も頑張ろうという気持ちになってくれると大変うれしいと思っています。以上です。

【司会】

はい。SBSさん、どうぞ。

【静岡放送(SBS)】

関連してなんですけれども、たくさんメンバーの方、今、ご紹介いただいたんですけれども、月曜と金曜の午前中だけっていうのはなぜなのか、毎日やれば、あれだけメンバーがいるなら、毎日できるんじゃないか。むしろやってほしいと思うんですが、いかがでしょう。

【市長】

まず第一歩の実証実験ですので、ここから始めます。

もちろん、これが評判が良ければ、毎日ということ積極的に考えていきたいと思っています。本来業務をやりながらですのでね。今回、実証実験ですので、そのあたりもぜひご理解をいただきたいと思います。

【司会】

いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございました。

それでは、幹事社質問のほうにまいりたいと思いますので、幹事社さんお願いいたします。

【幹事社(毎日新聞)】

市政報告ありがとうございました。

市長にお伺いします。

先日、まちづくりセッションが最終回まで終わったと思うんですけども、最終回では、リニアの建設工事に伴うトンネル開通で、アクセスが向上する井川地域の住民さんとの意見交換もあったと思います。感想などあればお聞かせください。

【市長】

セッションと名付けました。これは、双方向の対話集会にしたいという願いを込めました。

ひとつは市のPRベタを、これも打ち破っていきたく。つまり、情報発信力の強化。私たちが静岡市として、どんな都市ビジョンを目指してまちづくりを進めていくのか、3次総と5大構想とSDGsという3つのキーワードを手掛かりにして、ちゃんと市民の皆さんに、理解をしてもらいたいという情報発信力の強化ということが、ひとつの目的でありました。

もうひとつは、そういう大きな行政課題から、それぞれ生活をしている、それぞれの地域でしている目線からの市政への要望を、ご意見等々を伺うことでありました。どこの会場も、そこを一番多く時間を充てたわけですけども、挙手が矢継ぎ早にあがって、そして、いろんな意見をいただきました。

その中には、私たちが、気がつかなかったことも多々ありました。また、それを所管の職員が耳を傾けてすぐ対応をする、できることから始めるというスピード感にも繋がってきました。そういうことで、市民の方々がセッションに参加して、そして自分が発言をすることによって、何か市政に反映される、まちづくりにコミットする、当事者意識を持つという気持ちになってくだされば、自治という点でも大変成果があったのではないかなというふうに思っております。

本当に準備にかけて、それこそ若手職員から、もう暑い中から、梅雨の大雨の中、汗だくになって交通誘導から何から何まで準備をしてくれた数多くの、広報課の主催ですが、各局の職員が頑張



ってくれたということも、私は労いたと思っています。以上です。

**【幹事社(毎日新聞)】**

ありがとうございます。

井川での会では、市長のほうから、依然として中下流域の水問題は残っているというふうな発言もあったと思います。今後についてはどういったお考えでしょうか。

**【市長】**

おっしゃるとおりですね。私たちは基本合意の中に、その水問題にはこれからも関心を持っているし、直接、JR東海に対して、そのことについて意見を申し上げていきたいというふうに思っておりますので、井川でのセッションの時にもそのような発言をいたしました。

**【幹事社(毎日新聞)】**

わかりました。ありがとうございます。

**【司会】**

よろしいですか、幹事社さん。はい。ありがとうございました。

それでは、その他、各社さんからご質問がありましたらお願いいたします。

**【読売新聞】**

連携中枢都市圏のことでお伺いしたいんですけども、政府が連携中枢都市圏を主体としたまちづくりを今後進めていくというような方針を示しているんですけども、田辺市長は静岡市、この中部の7市町の連携中枢都市圏というのを非常に重視されてきているかと思うんですけども、今、報道で出ていることだと、圏域を地方交付税の交付対象にするですとか、まちづくりから社会保障まで、幅広く連携中枢都市圏に権限を移譲するというような方針を示しているんですけども、まだ、市長、お一人のお考えでどこまでっていうのは難しいかと思うんですけども、そういう連携中枢都市圏に、今後、一つ一つの基礎自治体からまちづくりの主体が変わっていく中で、中部の連携中枢都市圏としては、そういった予算編成等々ですね、どこまで踏み込んで一緒にやっていくかっていうような、もし見通しとか、お考えみたいなものが、ちょっと将来的な希望も入ってくると思うんですが、もしあれば教えていただければなと思います。

**【市長】**

はい。読売新聞さん、第一面で大きく報道してくれたということは大変話題に、首長の間でもなっております。私は、この連携中枢都市圏の全国のモデル都市、SDGsと同じようにモデル都市として、この、我々5市2町の取り組みを見てほしいということを国に対しても伝えております。ただし、ご指摘のとおり一番、私が大事にしているキーワードが「ポリセントリック」ということです。

つまり、水平連携をどう担保するかという仕組みであります。当然、5市2町115万圏域であります。そのうちの70万人は静岡市で、あとの6つの自治体と一緒にしても45万(人)ですね。そういう意味で、圧倒的な人口規模を誇る静岡市ですが、それは自治体としては分権対等の立場、つまり、それぞれの自治体の歴史や個性というものを生かした、分権的なポリセントリックな考え方ということ尊重してかないと、このオペレーションというのは、うまくいかない。平成の大合併の時とは時代状況が違うというふうに思っています。

なので、私は他の6つの首長に、私たちが事務方として汗を流すよ、だけれども、ポリセントリックとつまり、「静岡市について来い」という発想ではなくて、ポリセントリックな発想で、これをガバナンスしていかなければ、うまくいかないというふうに思っています。

総論賛成、各論反対ということが、これからいろいろな行政課題で連携中枢都市圏を進めていく上で、出てくるというふうに思っています。

今でも、いくつかそういう案件はあります。そここのところを、きちっと対処していく、つまり、コーディネート力といふかな、調整力が試されることだろうなど。

その調整力を、静岡市も発揮をしていきたい。だから、水問題のことだって、やはり5市2町の中で、川根本町にしても、島田市にしても、吉田町にしても、牧之原市にしても、大変、懸案として残っているわけですからね。そこに、私たちは寄り添っていかなければいけない。県に対して、ちゃんと水問題のことについても要望していかなければいけないということも、この5市2町の枠組みを尊重したいがゆえに、私たちは意識をしていきたいと、独りよがりになってはいけないというふうに思っています。

ただ全体を言うと、フルセット主義で自治体は何でもハード整備をするということはなかなか難しい時代になります。なので、川根本町や吉田町で、人口一万人規模で頑張っている自治体の気持ちに寄り添いながら、その辺りの連携中枢都市としての理念というのは、きちっと理解をして進めていかなければいけないなど思っています。以上です。

#### 【司会】

読売(新聞)さん、よろしいですか。朝日(新聞)さんどうぞ。

#### 【朝日新聞】

我田引水で恐縮ですが、今、高校野球がいよいよ佳境を迎えて参りますが、市長は母校の応援で球場に行かれる予定はありますか。

#### 【市長】

ベスト32が出揃いましたのでね。これからは本番であります。もし秘書課長が許していただけるんだったら、行きたいところではございますが、なかなか公務が忙しくて、今、予定はついておりません。

**【静岡第一テレビ】**

小中学校のエアコンの設置について、伺いたいですけれども、これだけ全国的に危険な暑さが続いていて、全国で学校での熱中症で搬送される事案が起きていますけれども、静岡市の市立学校のエアコンの設置率を聞いたら 0.8%ということで、全国平均から見ても、ずば抜けて低いという状態になっているんですけども、なぜエアコンの設置が進んでいないのかってことを一点お伺いしたいのと、市長としてエアコンの設置についてどう考えているのかというのを伺いたいですけれども。

**【市長】**

はい、わかりました。2つ質問をいただきましたので、一つ目の方から。

静岡市は、私が市長になる以前から、耐震化に優先順位をつけて、予算を使ってきたということが、結果的に限られた財源の中で、こういうことになってしまっているということでもあります。

しかし、防災対策という観点で、まずは子どもの命を守るということで、先輩方が耐震化を最優先に課題として、これは 100%です。他の自治体に先駆けてね、100%耐震化が進んだということでもありますので、相対的な話なんだろうなというふうに思っています。

しかし、これが後段の質問になろうかと思いますが、この地球全体がちょっと狂っている、だから、SDGs。気候変動に対しても、我々、意識を持たなきゃいけないという大義にもなってくわけですけども、地方自治体とはいえ SDGsに取り組んでいかなきゃいけないということになっていくわけですけども、このちょっとおかしくなっているこの酷暑で子どもたちが集中して勉強ができる環境ではないというふうに認識をしておりますので、これも予算が伴うものなので、これからでありますけども、是非ね、前向きに、この設置について、検討を加速するように、所管の教育委員会、財政局には指示を出しているところであります。

そして、基礎調査、昨年度の予算の中でしておりますのでね、だいたいその辺りのところが出揃って、31年度の予算に向けて、今、検討を急いでいるところです。

**【静岡第一テレビ】**

市長としても、前向きに進めたいというお考えということでよろしいでしょうか。

**【市長】**

ただ、126校ありますのでね。このエアコン設置の難しさは、一気呵成にやらなきゃいけないってことなんですよ。だらだらだらだら、例えば予算の制約の中で10校ずつなんていうと、もう日が暮れちゃうですね。

そのうち、各学校にPTAがありますから、なんで隣の学校についているのに、うちのところにはないんだ、みたいなね。そういうことにもなりかねない。大義を作って一気呵成にやってくということも必要で、そのあたりも検討をしています。

教育委員会からは今日は…。少し補足をして頂きたいなというふうに思います。

**【教育施設課長】**

今、市長がおっしゃっていただいたようにですね。今、うちの方でも基礎調査というか、全校の調査を今かけておまして、それで、事業費の精査とですね、事業手法の検討というのをやっております。それで、昨年度は、学校の基準を作りまして、あの今年度のその全校調査、それと、あとは事業費の精査関係をやっておりますね、ぜひ事業実施に向けて進めていきたいと考えております。以上です。

**【司会】**

その他いかがでしょうか。はい、中日(新聞)さんどうぞ。

**【中日新聞】**

2年半ぶりに質問させていただきます。

**【市長】**

Welcome back !

**【中日新聞】**

提供資料の件で戻ってしまって恐縮なんですけれども、ブロック塀の施設は、特に危険な 50 ほどこですかね。子どもとかが利用する場所があれば公表した方がいいと思うんですけども。

**【市長】**

なるほど。これは、実務的に都市局の方に答えて頂こうかな。今、分かる範囲でお答えをいただきたいと思っております。

**【中日新聞】**

ついでにもう一点お願いします。いつぐらいまでに、対策を進めるつもりなのか。

**【市長】**

なるほど。これね、ホットな話題だもんだから、私を含め副市長、政策官いらっしゃいますが、まだ、きちっとした検討をしておりません。なので、今、答えられる範囲で実務的に答えますので、よろしくお願いします。

**【設備課】**

施設名の公表ですけど、今、準備を進めておりますけれども、随時、公表してまいりたいと考えております。よろしいでしょうか。

**【市長】**

はい、まあ加速していきますよ、これもね。なので、またあの随時報告します。  
今日、担当の副市長が、まだ機上の人だもんですから。

**【司会】**

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。それでは、以上で本日の定例記者会見、終了させていただきます。

次回は、8月7日、火曜日になりますが、午前11時予定しております。よろしくお願いいたします。

**【市長】**

「おもてなしコンシェルジュ」、報道をお願いしますよ。